

## インターバンクの声（2015年3月11日）

昨日のニューヨーク・ダウ平均が、前日の上昇分を全て吹き飛ばした上に300ドル以上も値下がりました。金曜日に発表された雇用統計結果によって米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げが早まることへの不安感が、一日の間を置いて増幅されてしまったようだ。米大統領経済諮問委員会（CEA）ファーマン委員長が強いドルと世界経済の成長低迷が米経済に向かい風を吹きつけていると述べたことが伝わる中、ドル高によって多国籍企業を中心にした米企業収益の悪化懸念が広がったこともあってか、売り先行となったまま終盤まで買い戻されることはなかった。それでも為替市場ではドル高の流れは変わらず、対ユーロでは12年ぶりの高値に上昇、対新興国通貨でも上昇が続く皮肉な相場となった。例外的なのがドル円相場となっており、株安や新興国通貨が急落する中でリスク回避の動きが増してくると、どうしても円買いになってしまうようだ。されど121円前後、もう少しドルが下がれば円を売りたい投資家は依然として多いようだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。